

田辺市が人気の理由とは

田辺市を中心に熊野の観光プロモーションとお宿の手配などの旅行業を行っている田辺市熊野ツーリズムビューロー（以下、ビューロー）の多田さんとブラッドさんにお話を伺いました。

田辺市は、「人」が魅力

平成16年に熊野古道が「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録されたことで、多くの外国人観光客が田辺市を訪れてくれるようになりました。

しかし、一時のブームではなく、人気が続いているのは、地域に住む人の力です。

熊野には、古くから貴賤男女の隔てなく、浄不浄を問わず、何人をも受入れてきた歴史があり、現在も地域の皆さんが外国人観光客を快く迎え入れています。田辺市の魅力についてのアンケートでは、

「一番多い意見が「人が優しい」でした。道に迷っていたら声を掛けてくれる、商店街や熊野古道を歩いていると、すれ違う人が「こんにちは」と笑顔で挨拶してくれる。そういった対応に「親切で優しいまち

の雰囲気」を感じています。

また、熊野古道がきれいに保たれていることに驚かれる方もいます。なぜなら、世界遺産となり、有名になることで現状維持が難しくなる観光地が多いからです。地域を愛し、地域を守る住人や文化に感動し、共感しています。そして、訪れた方もまた、熊野古道を愛し、守ってくれています。

地域みんなの力

世界遺産登録当初、外国人観光客の受入れ体制は十分ではありませんでした。ビューローでは、アンケート調査や地域事業者とのワークショップを通じて情報収集を行い、外国語を併記した看板や時刻表、外国語が話せなくてもコミュニケーションがとれる指さしシート、多言語で活用できる観光サイト・予約サイトなど、地域と一体となって取



多田さん

り組んできました。一人ではできなかったことでも、地域の皆さんのアイデアや努力が実を結び、田辺市は今、安心して旅行できるまちとして海外から高く評価されています。

挨拶は日本語で大丈夫

コロナ禍でも海外からの関心は高く、令和4年10月には、1か月間で1244人の予約申込みをいただきました。これは、コロナ禍前の令和元年10月と比較しても、約1.2倍に回復しています。

今後も、海外の方から愛される秘訣は、そんなに難しくありません。外国人観光客は、地域のひととの交流を求めています。海外の方を見かけたら、是非笑顔で挨拶してみてください。日本語で大丈夫です。それがきっかけとなり、この地域の魅力がもっと伝わるでしょう。



ブラッドさん

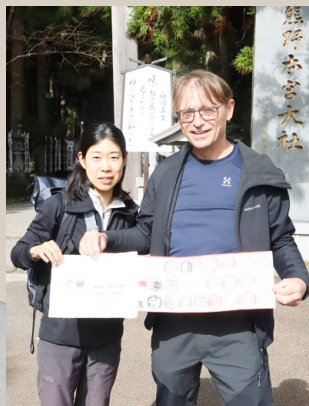
世界に誇る巡礼文化

世界に2つしかない「道の世界遺産」を有する田辺市とサンティアゴ・デ・コンポステーラ市（スペイン）は、共同で両方の道の押印帳を一つにまとめた共通巡礼手帳を発行しています。開始約7年で3,800人以上の方が2つの道の巡礼を達成されました。



共通巡礼は素敵なアイデアですね！熊野古道を歩いてみて、自然の豊かさに感動しました。地域の方はとても親切で、地図を広げるだけで、声を掛けてくれ、助けてくれました。クラシックさん夫妻（アメリカ）

今回の入国緩和で、ようやく熊野古道を歩くことができました。サンティアゴ巡礼路とともに制覇することができました！ダールボアさん夫妻（ドイツ）



龍神温泉

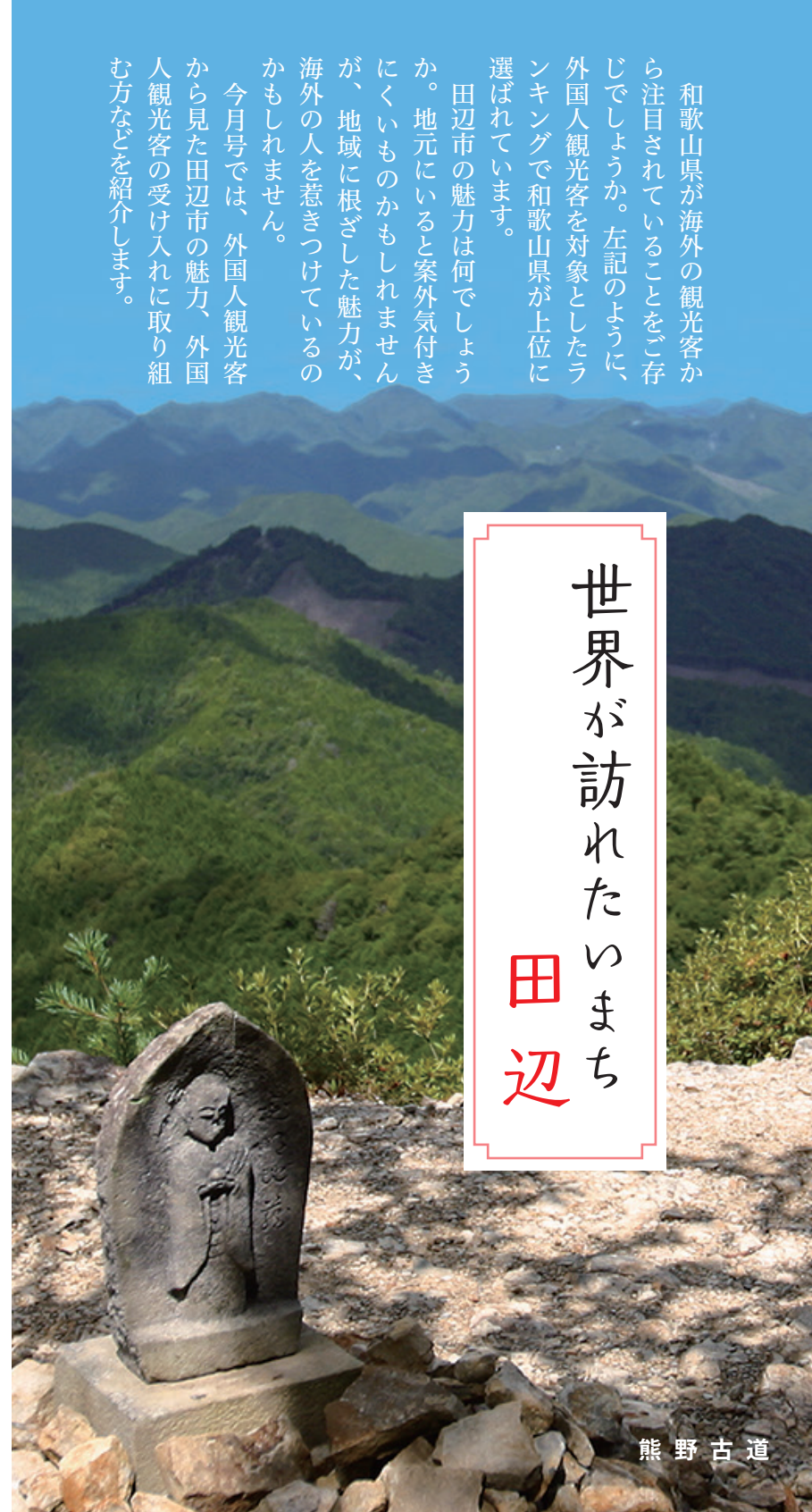
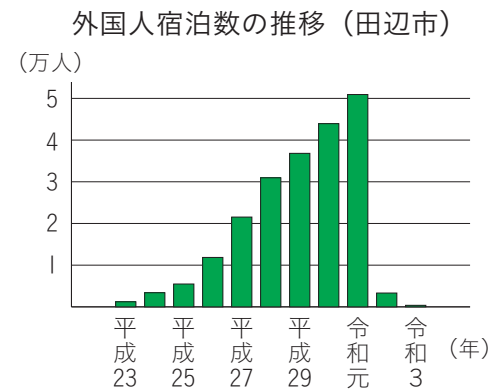
令和3年 Lonely Planet 発表
持続可能性に配慮した観光地
和歌山県が世界第 **1** 位

令和2年 ガイジンボット発表
2020 年外国人が訪れるべき
日本の観光地
熊野地方が国内第 **1** 位

平成30年 Lonely Planet 発表
世界の訪れるべき10の地域
紀伊半島が世界第 **5** 位

増加する外国人観光客

平成16年に熊野古道が世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に登録されて以降、コロナ禍になるまで、田辺市に訪れる外国人観光客は年々増加しており、令和元年には、5万人以上の外国人が市内宿泊施設を利用してくれました。令和2年からコロナ禍の影響で減少していますが、政府が令和4年10月に外国人観光客の受け入れ緩和を行ったことを機に、徐々に市内で外国人観光客を見かけることが増えています。



熊野古道



天神崎



田辺の魅力を再発見!!

外国人観光客の本格的な受入れ再開に向け、受入れ態勢を整えるため、龍神温泉 1泊2日のモニターツアーに同行しました。参加された方たちの感想を通じて、田辺の魅力を再発見しました。



みかんジャム作り



藍染体験

秋津野ガルテンでは、農家レストランや、スイーツ体験工房、みかん資料館等があります。

温州みかんは海外でもとても人気で、この体験を楽しむにきた方が何人もいました。

芸術、工芸等の創作活動の拠点であるアトリエ龍神の家で藍染体験しました。

職人から直接教えてもらえることで、「作品に対する情熱とこだわりを感じた」と話してくれました。翌日には、早速作ったストールを着けていた方がいました。



里山サイクリング

龍神では、令和3年4月から電動アシスト付自転車を貸し出しています。今回初めてモニターツアーで体験していただきました。

「電動アシストのおかげで楽々山を越えることができ、自然に囲まれた里山を存分に堪能できた」と皆さんに人気でした。「2時間があっという間だった。まだまだ行きたい」、「連なる杉やひのきがとてもきれいだった」という声もありました。

コロナ禍により外国人観光客が激減し、観光業は大きな打撃を受けました。市では、事業者向けの支援策や観光キャンペーン等により地域経済の維持・回復に努めながら、令和4年10月の入国規制緩和を受け、改めて外国人観光客の受入れ態勢を整えようと、事業者向けのワークショップや国内在住の外国人を対象としたモニターツアーも実施しています。

コロナ禍においても日本への関心が高く、今後さらに外国人観光客の増加が見込まれます。本格的な訪日旅行再開に向けて、受入れ態勢を整備しておくことで、田辺市での満足度をより一層高めたいと考えています。



観光振興課
坂田 新菜

観光振興課にいなは、地域の皆さんとの交流を楽しむにしています。市内で外国人観光客を見かけた際には、本紙で紹介している対応例も参考に、ぜひ声を掛けてみてください。それがおもてなしとなり、地域の魅力向上につながります。また、観光客との交流は、住んでいると気付きづらい地域の意外な魅力を知る機会にもなります。交流を通じて、改めて地域への愛着を育んでいただくとともに、その魅力を地域外の方にも伝えていただくことで、どんどん田辺のファンを増やしていつてほしいです。

地域全体でおもてなし



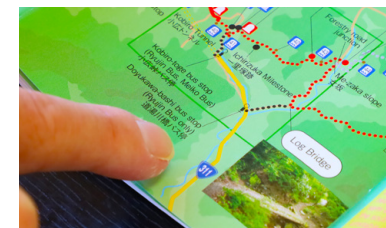
おもてなしの心

外国人観光客がよく訪れるという民宿と飲食店にお話を伺いました。経験から得たおもてなしをするための工夫や心掛けがたくさんありました。また、三里小学校や本宮小学校では、語り部活動を行っており、その様子を取材してきました。

ゆっくり休んで次の目的地へ

ここに来る外国人観光客の目的の9割が熊野古道。熊野古道を歩き、疲れた体を休めてもらうためのサポートをしています。英語は全く話せませんでしたが、今では「バスの時間は?」「明日の道のりはしんどい?」など、よく聞かれることは、なんとなく分かるようになってきました。長い文章の時や伝えるのが難しい時には携帯の翻訳アプリを使います。

料理については魚が食べられない、肉が食べられないなどあるので、できる限り一人ひとりに合わせて作るようにしています。これからもたくさんの方に精一杯のおもてなしで熊野古道を楽しんでもらいたいです。



(上) 英語併記の地図で説明
(下) 食事を楽しむ観光客



ゆうた
木下 雄太さん
民宿経営 (中辺路町)

喜んで帰ってもらう

コロナ前は毎日のように外国人が来ていました。対応するために英語記載のメニュー表を準備しています。また、魚の種類などよく使う英単語はノートにメモをしています。

外国人観光客とコミュニケーションを取ることは苦労しますが、身振り手振りでなんとなく伝えることができます。帰り際には、みかんやお菓子を渡してあげると、とても喜んでくれます。カウンターの上にはみんなが書いてくれたメッセージカードがたくさんあります。



りょういち
橋本 良一さん
飲食店経営 (味光路)



(上) 英単語が書かれたノート
(下) メッセージカード

三里小学校では、郷土の世界遺産について知ることや故郷を誇りに思う心を養うことを目的に平成19年から語り部活動を行っています。この日は、本宮小学校の児童に対して発心門王子から三軒茶屋までの道のりを案内しました。案内をした三里小学校の児童は「語り部学習は大変だったけど楽しかった」と話してくれました。



作成したパネルで説明を受ける本宮小学校の児童



三里小学校5・6年生
語り部学習